

「新しいことづくしの10日間」

理工学部1年 S・H君



＜初日のウェルカムディナーの様子＞

1. 参加をしたきっかけ

これまでに海外へ行ったことが無く留学への思いを馳せていたところ、大学の職員さんからの薦めで参加に至りました。先進国よりも発展途上国に興味があったため、フィリピンで開催されたこの企画に惹かれました。

2. 活動概要・体験記

このプログラムは東洋大学が国際事務局を務めるアジア太平洋大学交流機構（UMAP）が主催をする企画で、今年から実施されました。7月30日から8月8日までの9泊10日で行われ、日本からは4名、フィリピンからは21名、他は中国、タイ、香港、台湾、ベトナム、マレーシア、ブルネイと合計42名の大学生が参加しました。環境問題の討論や現地の歴史的地域や観光名所を巡りながら、時にはダンスをしたりや歌を歌うなどして親睦を深めました。最終日は自由行動で、フィリピンの学生たちが買い物に連れて行ってくれたため、のんびりとした旅を味わうことができました。

3. すべてを終えて考えること

参加者の国籍が様々だったので、多くの文化に触れられました。フィリピン人は決まって朝一番にシャワーを浴び、クリスチャンは訪れた教会で祈禱を捧げ、ムスリムはハラール料理を食べ、中華系は爆買いをする。どれも聞いたことはあっても実際に目にするのは初めてでした。同じ時間を共有するからこそ見える世界があり、それは名状し難いほどに貴重な体験です。

日本に閉じこもるは良し、大海を知ることは尚良し。



＜協会へのスタディツアー＞



＜フィリピンの学生たちと＞